

編集後記

torami

記事、編集、校正…何もかも初めての経験でした。ちょっと大変なときもありましたが、何にも替え難い素晴らしい修行になりました。宝彩先生、仲間の皆様、ご指導本当にありがとうございました。

最近の瞑想会では、仲間の皆さんが素敵に変わっておられると思うことがとても多くなりました。特に久々にお会いする方は劇的です。修行の成果はすごいです。

黒幕

この号の私の記事は、折に触れて書き留めている修行メモが元になっています。これより二ヶ月ほど前のメモには、こんなことが書いてありました。「朝起きて、今日やることや会う人のことを考えて不安になりかけたときに、『どこにいてもそこが自分の場所』と思うと、安心して心が軽くなった」

苦しい中であれこれ工夫していた自分が思い出されて、いとしくなってきます。

大空旅人

創刊号に続いて、宝彩BBマガジン第2号を送り出せることが、とても嬉しいです。読者の皆様の修行の参考になるようにとの願いをこめて、記事を作りました。日々の修行に役立てていただけたら、幸いです。それにしても、作者になったり、編集者になったりしながら、修行者でもあるスタッフの皆さんと協力して記事を作る作業は、何ともいえない楽しいものです。マガジンの制作に参加できることは、本当に幸せなことだと思います。

トモ

今回は原稿を書いている中でたくさんの気づきを得ることができました。自分の中の不要なプログラムを見つけ、それがクリアになったときの爽やかな開放感は、何物にも代えがたい宝物です。宝彩BBマガジンは、読み手にも書き手にも気づきをもたらし、心に青空が広がる素晴らしいマガジンです。編集スタッフとしてかかわることができて、本当に幸せです。この場を借りてお礼申し上げます。皆さま、ありがとうございました。

ひまわり

久しぶりに「初体験」が出来ました。ちょっとほろ苦い初体験でしたが、終わってみたら、楽しく、また書いちゃおうかななんて、図に乗ってます。編集担当者を相当(?)てこずらせてしまったのに……。けれど、編集室内がとても優しく、楽しい雰囲気なので、それに触れられただけでも幸せです。会話が言葉だけでなく、文章も文字だけでなく、行間や全体からも伝わるものがあるんですね。ありがとうございました！

宝彩有菜

創刊号と第2号の間に宝彩瞑想会の伊豆合宿等がありました。そんなこんなで、あっという間に、第2号の締め切りを迎えた感じです。内容がますます充実してきていますので、とても嬉しいです。皆でワイワイガヤガヤするのは、結構楽しい作業だと思っています。たぶん、制作途中で互いのやりとり等から、ふと得ることのできる「気付き」も多いからなのでしょう。また、それを横目で見ていて、思わず笑顔になったり。嬉しいことです。

しずあめ

今回掲載していただいた文章は、自分と瞑想の出会いの時点の話。そのときどんな自分だったか、久しぶりに見つめなおし、思い出しながら書き進めました。そんなに以前のことでないはずなのに随分昔のことに感じます。どんな心境で参加していても、瞑想会には淡々と瞑想をリードしてくれる宝彩先生がいました。改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

チバ

ようやく創刊号を出せたと思ってぼやぼやしていると、ぼやぼやしたまま第2号の執筆・編集作業が始まりました。おかげで原稿執筆に関しては、前回以上の生みの苦しみを味わった気もしますが、終わってしまえば「楽しかった！」のひと言です。なんなんですか、この圧倒的な開放感(笑)。編集スタッフのみなさん、ありがとうございました。そして宝彩BBマガジン第2号も、読者の方に少しでもお役に立てるよう願っています。

Mayur

いつも乗る電車の線路ぎわにあじさいがいっぱい咲いています。通勤ラッシュ時には見ることもままなりません。すいているときは電車の先頭に乗って、あるいは進行方向に向かって立って、あじさいのパノラマ風景を楽しんでいます。スピードが出るとアーッ！そこは青いベルト地帯です。次号をお届けするときはどんな季節になっているでしょうか。楽しみです。